

二〇二三年 第一回 一橋大本番レベル模試 国語

解答・採点基準

全3問 100分 100点満点

問題一 (40点)

〈現代文 菊地暁『民俗学入門』〉

解答

問い一 A 戸籍 B 喝破 C 年貢 D 沃野 E 波紋

問い二 文字資料は読み書きできる特別な人々が書き残そうと欲した特別な出来事の記録だから。(四〇字)

問い三 ある事象の分布からそれが反映している歴史を捉えること。(二七字)

問い四 過去の人々に大部分を依拠する日々の私たちのふるまいも普通の人々の日々の暮らしの歴史を説明するための民俗資料だということ。(六〇字)

採点基準

- ▼ 採点に際しては、必ず解説を参照して、許容される解答を確認すること。
- ▼ 小問ごとに、**加点法・減点法併用**で採点する。**0点**以下になった場合、その問は**0点**とする。
- ▼ 「X」という内容（**?点**）の項目は、答案全体がどのような文章構成であるかに関わらず、**答案の一部に要素Xが含まれているかどうかを判断する**。
- ▼ 「X1とX2がY」という**論理関係**になっていなければ、**?点減点**の項目は、**要素X1とX2が両方とも揃っている答案だけを判断の対象にする**。つまり、X1とX2のいずれかでも欠けている場合は、Yについての減点はしない（Yの欠けによって失点しているので、さらに減点する必要はない）。
- ▼ 各々の採点項目について、**マルかバツかの二択で判断すること**。誤字脱字以外の部分点は原則として認めない。

問一 各2点 計10点

A 戸籍 B 喝破 C 年貢 D 沃野 E 波紋

* 部分点なし。

問二 10点満点

1. 文字資料は読み書きできる人だけが残せる、という内容（5点）

* 「リテラシーのある人」という表現でも可。

* 単に「特別な人々」や「支配階層」とだけ書いてある場合は不可。

2. 文字資料には書き残そうとする意志がはたらく出来事だけが書き記される、という内容（5点）

* 単に「特別な出来事」とだけ書いてある場合は不可。

* 文末が「〜から」「〜ので」（もしくは、問いのカテゴリーに対応する答え）になっていないければ、**1点減点**。

* 解答が四〇字以内に収まっていない場合は**0点**。

問三 8点満点

1. ある事象の分布が歴史を反映している、という内容（4点）

2. ある事象の分布から歴史を引き出す、という内容（4点）

* 1・2ともに「歴史」という語を用いていない場合は不可。

* 解答が三〇字以内に収まっていない場合は**0点**。

問い四 12点満点

1. 私たちの日々のふるまいが民俗資料である、という内容 (4点)

* 「私たちの日々のふるまい」は「日々の暮らし」「日常生活における所作」「身体的記憶」などの表現も可。

2. (私たちの日々のふるまいは)その大部分を過去の人々に依拠している、という内容 (4点)

* 「自分ではない過去の人々が作り、使い、伝えてきた」などの表現も可。

* 単に「歴史を宿している」、「歴史が刻まれている」だけ書いてある場合は不可。

3. 普通の人々の日々の暮らしの歴史を説明するため (の (民俗) 資料)、という内容 (4点)

* 「歴史」が書かれていなければ、2点減点。

* 解答が六〇字以内に収まっていない場合は0点。

問題二 (30点)

〈近代文語文 幸徳秋水『兆民先生』〉

解答

問い一 漢字を用いる作法を理解せずして、文章を作ることができだろうか(いや、できない)

問い二 原文の趣を味わうことによる快を得たいと思ったから。(二五字)

問い三 日本語の基である漢文と、欧文とりわけ英語を多く読み書きし、世界中の人を読者にとって議論を交わすことで、文人として先人にはない新機軸を打ち出せるようになること。(七九字)

採点基準

- ▼ 採点に際しては、必ず解説を参照して、許容される解答を確認すること。
- ▼ 小問ごとに、**減点法**で採点する。**0点**以下になった場合、その問は**0点**とする。
- ▼ 「X」という内容（**?点**）の項目は、答案全体がどのような文章構成であるかに関わらず、**答案の一部に要素Xが含まれているかどうかを判断する。**
- ▼ 「X1とX2がY」という**論理関係**になっていなければ、**?点減点**の項目は、**要素X1とX2が両方とも揃っている答案だけ**を判断の対象にする。つまり、X1とX2のいずれかでも欠けている場合は、Yについての減点はしない（Yの欠けによって失点しているので、さらに減点する必要はない）。
- ▼ 各々の採点項目について、**マルかバツかの二択で判断すること**。誤字脱字以外の部分点は原則として認めない。

問い一 8点満点

1. **漢字を用いる作法を理解せずして**、という内容がなければ、**2点減点**。
 - * 「法」については、「作法」「方法」に類する訳を許容する。「法」のままは不可。
 - * 「解す」は「解する」と訳していてもよい。「理解する」「分かる」という意味に解釈できない場合は不可。
 - * 「ず」を打消の助動詞として訳していない場合、不可。
2. **文章を作ることができかどうか（いや、できない）**、という内容がなければ、**6点減点**。
 - * 「能く」と「得」を可能を表す表現として訳していない場合、**2点減点**。
 - * 「ん」を**推量**の助動詞として訳していない場合、**2点減点**。
 - * **反語**として解釈できる表現になっていない場合、**2点減点**。（疑問との区別はつかなくともよい）

問い二 10点満点

1. **原文**、という内容がなければ、**3点減点**。
2. 1の**趣**を味わう、という内容がなければ、**2点減点**。
 - * 本文8行目「真趣味」に対応する語がなければ、不可。「味わう」にあたる語はなくともよい。
3. 1・2による**快を得たい（と思ったから）**、という内容がなければ、**5点減点**。
 - * 「原文を読むことによる快を得ることが望ましい」という思いを表現できていれば、幅広い表現を許容する。

* 「それはなぜか」という問いに答える形の文章になっていない場合、**1点減点**。

問い三 12点満点

1. 漢文、という内容がなければ、1点減点。
 2. 欧文とりわけ英語、という内容がなければ、1点減点。
 - * 「欧文（西洋の文）」は欠けていても許容するが、「英語」が欠けている場合は不可。
 3. 1と2を多く読み書きする、という内容がなければ、2点減点。
 - * 「読む」と「書く」の二つがない場合（単に「学ぶ」など）は、1点減点。
 - * 「多く」が欠けている場合は、1点減点。
 4. 漢文は日本語の基である、という内容がなければ、2点減点。
 - * 日本語が漢文から成ることを表現できていればよい。
 - * 「日本語の文章を書くためには漢文の素養が必要」という方向性の説明でもよい。
 5. 世界中の人を讀者にとって議論を交わす、という内容がなければ、3点減点。
 - * 本文16行目「世界の人たるを得ん」をふまえた表現も許容するが「読者になる」という内容が欠けている場合は、2点減点。
 6. 先人にはない新機軸を打ち出す、という内容がなければ、3点減点。
 - * 「先人」と「新機軸」にあたる内容がなければ、不可。
- * 「どのようなものか」という問いに答える結び方になっていなければ、1点減点。

問題三 (30点)

〈現代文 (要約) 中島義道 『差別感情の哲学』〉

解答

現代日本では、家族は露骨な愛を注いでも許される唯一の組織であり、家族愛の表明だけが特権的に安全である。家族至上主義の多数派は、家族の愛に包まれる幸福をすべての人に要求するという暴力を穏やかな形で実行している。しかも、幾重にも保護されている家族愛のうちに安住している者は自己批判精神を喪失し、わずかの罪責感ももたないほど鈍感なまま、知らないうちに多くの非婚の人や家族関係に苦しんでいる人を傷つける。(一九八字)

採点基準

問い

30点満点

1. 現代日本において、露骨な愛情表現を示しても許される唯一の組織は家族である、という内容（4点）
 - * 「現代」の「日本」を話題としていることが明示されていない場合（たとえば「日本社会」とのみ書いている場合）、不可。
 - * 「唯一の」にあたる内容がない場合、不可。
2. 1の説明として、家族愛だけが特権的に安全、という内容（3点）
3. 1の説明として、家族愛に包まれることが自然である、あるいは、最大の幸福である、という内容（3点）
 - * 「自然」か「幸福」のいずれかを含んでいけばよい。
 - * 「家族至上主義」という言葉を用いて表現していてもよい。
 - * 「家族は絶対的に「よきもの」という表現でもよい。
4. 1の説明として、家族愛に関する正当性や絆は堅固である（幾重にも保護されている）、という内容（3点）
5. 4ゆえに、家族至上主義者は自己批判精神を喪失している、という内容（3点）
6. 非婚者や家族関係に苦しむ人、という内容（3点）
 - * ①家族を持たない人、②家族を持つているが、関係に苦しんでいる人、という二点を両方とも含んでいれば加点する。
7. 6について、それが非正統的関係とされる、という内容（3点）
 - * 反対に、家族至上主義者を「多数派」「正統派」と記述していてもよい。
8. 6・7が排除される、という内容（4点）
 - * 6・7に対する「暴力」と表現してもよい。
 - * 「排除」あるいは「暴力」という語がなく、単に家族至上主義者が「加害者」であると書いてあるだけでは不可。
9. 5ゆえに、人々は自らが加害者であることに罪責感を持たない（鈍感である）、という内容（4点）